



荷台に様々な荷物を詰め込み
ワンデイトリップの冒険旅行に！

オーバーランドスタイルとは、オフロードを走行できる頑丈な4駆にキャンプ用品や食料、燃料などを積み込み、その名のとおり、国境を陸路で超えて色々な国をキャンプしながら旅するスタイルのこと。島国である日本では国境越えることはできないのだが、海外で注目を集めているこのスタイルを取り入れることは可能だ。今回、そんなスタイルをキャンプにとり入れている冒険好きの2人に、普段から暇を見つけては行っているという林道ツーリングに連れていってもらった。大きな車体にたくさんの荷物を詰め込み、道なき道を走ってお気に入りの場所でキャンプを張る。興味があることをはとことんDIGる2人だけに、かなりマニアックで楽しいツーリングとなった。

Photo : HIKARU FUNYU



4 駆で行く林道ツーリング！

今回のナビゲーターはKASHI DA HANDSOMEさん（以下、カシさん）。オフロードバイクで行くイメージの強い林道ツーリングだが、カシさんはいつも愛車のキャンターでふらりと行き、そのままキャンプすることも多いとか。今回行ったのはネットなどにもあまり載っていない秘密のお気に入りの入りスポットの一つ。



今回林道ツーリングに行ったのは
アーティストのこのお二人！



left / KASHI DA HANDSOME

ヒップホップ黄金期の90'sから現在まで、東京のシーンで活躍し続けるラッパー/DJ。ウェアやギアをはじめ、ミリタリーヴィークルにも精通するシーンきってのミリタリー愛好家でもある。

Right / KEN-U

コアなファンも多い人気レゲエシンガー。DUPPIES RED氏が主催するSSSに参加し、AIR SOFTやサバイバルキャンプなどを通じて新商品やムーブメントの開発も提案する。

KEN-U's Camp Style

大陸を余裕で超えていけそうな
大人のオーバーランドスタイル

本格クロカン車としても人気のトヨタ・ランドクルーザーにセンスの良いカスタムを施し、街中はもちろん山から林道まで全てのシーンで共にしているというKEN-Uさん。海外のオーバーランドスタイルをかなり実践的に参考しており、ラゲッジやルーフキャリアには厳選した沢山のキャンプギアが効率的にパッキングされていた。愛犬の禪と共にクルマ1台でどこにでも移動し、そこでベースキャンプを張りながらも全てが行える、動く基地のよう。ギア類もメーカーや蓄積に促されるのではなく、理にかなったミリタリーアイテムを中心にサバイバルギアも取り入れるのがKEN-Uさん流だ。日本には陸路で国境がないが、もしあったとしても余裕で超えていけそうだ。

KEN-U's PRECIOUS VEHICLE



ヨーロッパやオーストラリアをメインマーケットにするこのモデル。フルタイム4WDで悪路の走破性も高く、本格クロカンとしても人気。KEN-Uさんはアメリカの田舎町で活躍する4WDをコンセプトにUSDM風にカスタム。シュノーケルやLINE-Xなどクールなカスタムが満載。リヤのキャリアにはマッドタイヤを装着し、スタッドレスと使い分けている。



スコップが装着されたルーフキャリアはYAKIMA製。ルームも合わせて4本設置されたLED BARIにより暗闇でも足元のように行き可能。さらに内装もPCスタンドや各種機器を取り付け、まるでコックピットのよう。運転席で全ての操作が行える。



全てのシーンに対応できる
理にかなったカスタムとギアセレクト

KEN-U's MY FAVORITE GEAR

大勢でのキャンプから
ソロの車内泊まで対応

今回は4人程度のキャンプを想定し、それに合わせて沢山のギアを持ってきてくれたKEN-Uさん。ギアのセレクトは、見た目よりも機能性を重視しているためサバイバル系のアイテムも多数。写真に写っているのはまだ一部で、ラゲッジとルーフキャリアにも沢山のキャンプ道具がぎっしりとパッキングされていた。



1人の時は中の荷物を出さずに車内泊できるよう、窓には全て断熱材を装着。コの字型に棚を作って下にはバッテリーを置き、エンジン止めた状態でも冷蔵庫なども使えるように。断熱マットと寝袋で快適に車内泊が行える。



普段からサバイバルギアを持ち歩く。MAG-FORCEのストラップにはSUREFIREのタフなライトも装着。さらにNIXONやDUPPIESなど都会的なミリタリーを普段から取り入れている。

コンパクトなパッキング術も
参考にしたいところ！



ラゲッジとルーフキャリアにキャンプ道具がびっしり！

大陸間をキャンプしながら移動するオーバーランドスタイルを実践しているだけあり、様々なキャンプ道具が効率的に積み込まれていた。ルーフキャリアにはfoxwingのサイドオーニングが設置されており、移動先ですぐにサイドオーニングを引き出し快適にキャンプを行えるように。1時間もかからず快適なスペースが誕生する。



サイドオーニングの下にコトや荷物を並べ、キッチンスペースや食事スペースなども設置。ミリタリーなアイテムがミックスされたギア類も。一緒に行く人数に合わせて、様々なキャンプスタイルに対応できる。



写真はカシさんが過去に愛車とともに行った冒険の記録。あまり知られていない林道や廃道がカシさんの主な冒険スポット。カシさんが運営するサイト、Pedal Mafia (<http://www.pedalmafia.com>)にもその模様がアップされている。

KASHI DA HANDSOME
&
KEN-U

日本中どこでもがプレイグラウンド!

Life of Journey

Case-3 OVER LAND Style
ライフ・オブ・ジャーニー

相棒といえるクルマでどこにでも出かけていって、冒険やキャンプを楽しむお二人。
東京に住んでいても、少し車を走らせればまるで違った風景に出会える。
ここでは、二人の冒険スタイルについて聞いてみた。

それぞれ特徴がある
二人の冒険スタイルとは

今回、オーバーランドスタイルということでお二人がいつもやっている冒険に連れていってもらいました。お二人とも冒険が好きで、共通点も多いと感じたんですが、それぞれスタイルも違って面白かったです。

KEN-U「そうですね。二人で行くようになったのはほんと最近で、カシ君は普通の人知らないような色々な林道、フィールドを知っていてぜひ一緒に連れていってくださって感じで。普段は人で行くときもあるし、大人数で行くこともありますが、それぞれ違った楽しみ方がありますね。でも、僕たちが行く時はいつも超アバウトですよ。カシ「そうですね(笑)。事前に目的地とかスケジュールとかも決めずに、いきなり山奥の無人駅で待ち合わせとか(笑)。でも、予定を決めて行っても絶対その通りにならないからそっちのほうが楽しいですよ。冒険にアクシデントやトラブルはつきものだし、偶然を楽しむのが面白さの一つかなって」

KEN-U「僕の場合はそのシチュエーションを想像しながら、じゃあこれ持っていって使ってみようとかこれも持っていって使うシーンがあるんじゃないかと、そういうことを想像するのも楽しいですね」カシ「KEN-U君はギアとかほんと沢山持っていて、趣味的なところも含めて楽しんでいますよね。僕

の場合、気の向いた時にばつと入行行って、山に着くとにかく行けるとこまで行ってみる感じかな。荷台にコタロウ(バイクのこと)と孫タロウ(自転車のこと)乗せて、車で行かないところは乗り換えで、最終的には歩きで行けるとこまで行きます。この先はどうなってるんだろとか気になったら行かないと気が済まなくなってきたらやうタイプなんです。冒険して夜暗くなったら、どこで寝ようか考えるんですけど、キャンプより冒険のほうがメインですね。で、寝る時はクルマがたまたま怖いから、もしでたらすぐに荷台に移動して1とかあれこれ考えてるうちにテントで寝ちゃってます(笑)」

KEN-U「僕はイベントとかで地方に行くことが多かったから、ホテルに泊まるくらいだったからキャンプしなきゃって感じてこのスタイルになりました。旅の途中とかでキャンプ場があったら、そこでキャンプするみたいな。林道とかはこれまであまり行ったことがなかったんですが、カシ君が教えてくれたところはリアルジャングルクルーズみたいで自分にとっては未知の世界。カシ君ほんと色々な場所知ってますよね。どうやって調べるんですか?」

カシ「林道とか廃道とかの情報って一般的にあまり公開されていないから、とにかく行ってみるしかないんですよ。で、入れなくて引き返すみたいなこともよくありますね。都内の林道は4駆で走れるところが少ないんですよ。ほとんどが入り口にチェーンとか張ってあって入れないとか。それに、林道を4駆で走るのはやっぱりリスク

もありですよ。普通は道ってどこかに抜けるものだけ。林道とか廃道は最終的に行き止まりや土砂崩れで通行不能とかよくありますから。そのあたりは気をつけてますね」

お二人ともミリタリーなアイテムが好きという共通点もありますね。今回持ってきてたキャンプギアにもちらほらありました。

カシ「やっぱりミリタリーものって信頼感が違うというか、お飾りなしの機能美に尽きるかなって。キャンプターの荷台にも常備ECMCS「Levi's」の防寒着を入れています。これを着ると真冬でも全然いけちゃいます。あと、日本には四季が違って季節ごとに木々の色合いが違いますが、それと同じように迷彩なども地域や年代によつて色合いが微妙に異なったりします。そうですね。あと、ミリタリーヴィークルもめちゃくちゃ奥が深く面白いですよ。でも、このあたりはさらに二ツでマニツクな話になっちゃうので、今日話したのはやめておきます(笑)。MFLさんでもミリタリーヴィークルの連載をやらせてもらっているの、ぜひそちらをチェックしてください」

KEN-U「僕もミリタリーアイテムってアウトドアとサバイバルが融合された最たるものだと思うの、でやっぱり自然と手にとったんです。30歳を超えたあたりからモノ選びの基準がシビアになっていて、見た目やブランドとかよりも、理にかなったもの。じゃない

と満足できなくなつたという。カシ「ミリタリーウェアやギアって、その時代の最先端の技術が取り入れられているので、そのあたりは信頼感が違います」

お二人の愛車はカシさんがキャンター、KEN-Uさんがランドクルーザー。プラドですが、もし次に買うならこんな車が欲しいとかありますか?!

KEN-U「カシ君が乗ってるトラックとか、ピックアップみたいな荷台がある車に乗ってみたいですね。外じゃなくても中に作業できるスペースがあれば、キャンプとか冒険のシーンでも絶対便利。発電機とかも使えるし。あと、トラクターとかも乗ってみたいですね」カシ「トラクターいいな。でも、海外だとトラクター引いたままメチャクチャマダマダいなところや岩場とか、メチャクチャタフに乗ってますよね。ボラリスとかATV積んで北海道行きたいな。みたいな(笑)。何にせよ、今のキャンターみたいに自分のライフスタイルにピッタリはまるクルマに乗れたらと思いますね」



カシ君のナビゲートは間違いないですね!
今度またいい所あるから一緒に行きましょう!



KEN-Uさんのキャンプ写真。愛車やお気に入りのギアと共に、真似したくなるようなお洒落なキャンプサイトばかり。旅の途中でキャンプすることが多いという。
Instagram
@kenutyoo
@overlandpin
@akuroaders

LINE-Xを各所に施行し
4駆らしいオフロードスタイルに！



ハイエースにありがちなローダウン系のカスタムとは異なり、4駆らしいオフロードスタイルが新鮮。オートキャンプなどアウトドア好きな人が真似したくなるようなスタイルだ。

〔 施工事例 〕

LINE-Xの効果、耐用年数は20年以上！ 再施工の必要はまずないだろう！！

LINE-X塗装を行えば傷防止や錆止めなど車両の長寿命化に大きく貢献してくれるのはもちろん、カスタムとしても優秀。

効果・耐久性は20年以上で、再施工の必要はまずない。

ここでは、ほんの一部だが、デモカーの施工事例をチェック。

バンパーやオーバーフェンダー、荷台部分など部分的に施行するのが効果的だ。

存在感抜群の
ピックアップトラックを
さらにワイルド&タフに！



荷台やスポーバーにLINE-Xを直接スプレーすることで、隙間がでず錆びないといった利点もあり。耐衝撃、耐酸腐などに加え滑り止め効果も期待でき、見た目とタフさを同時に向上。

USTヨタ タンドラ クルーマックス4WD
リフトUP×LINE-X カスタムデモカー
トヨタが北米（USTヨタ）で生産しているピ
ックアップトラック「タンドラ」をベースにカスタ
ムを施したデモカー。存在感抜群の1台に、荷台
やバンパー、オーバーフェンダーなどにLINE-X
を施行。トラックをよりワイルド&タフにトラン
スフォームし質実剛健なスタイルに。

KEN-UさんのPRADOにも LINE-X施工済み！



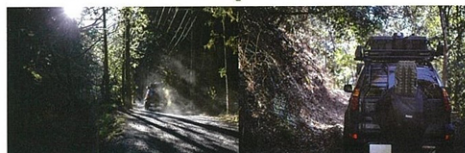
ランドクルーザー プラド

KEN-Uさんの愛車、トヨタのランドクルーザー プラ
ド。USDMをイメージしたセンスのあるカスタムで、
LINE-X施行によりさらに存在感のあるスタイルに。
LINE-XはUSTヨタのピックアップトラック荷台への
施工がメーカー純正オプションにも採用されている。



前ページまでのオーバーランドスタイルでご紹介した、レゲエアーティストKEN-Uさんのプラ
ドにもLINE-Xが施行されていた。山道や林道などオフロードを走ることが多いKEN-Uさん
らしい、質実剛健で理にかなったスタイルだ。

林道やオフロード走行にもってこい！



石詰めや小枝で車体が傷つくことは過酷なオフロード走行につきものだが、当たりやすい箇所
にLINE-Xを部分的に施行することで防ぐことが可能。タフさを向上させるうえでも、施行してあると
かなり心強い。



フロントグリルやフロントバンパー、フェンダーなど、強化したい箇所に部分的に施行を行なってい
た。車体傷つせずに、長寿命化する意味でもこれほど最適なカスタムはない。



米軍、政府が認めた唯一の最強塗装

LINE-Xを知ってるか!?

強度と適度な柔軟性を併せ持つ特殊な塗料「LINE-X」。防護用塗料として米軍・政府が唯一認めており、
USTヨタやUKトヨタ、ランドローバーなどでオプション設定に採用される、まさに最強塗装なのだ。

©LINE-X Auto Japan TEL.048-793-0077 HP:https://www.line-x-auto.co.jp
(運営:株式会社フレックス・ドリーム)

タフで武骨な独特な質感は
カスタムにも最適！

ランドクルーザー100 丸目フェイス×リフトUP ×LINE-X カスタムデモカー

こちらは全身にLINE-X塗装を施し、東
京オートサロン2017に出展されたデモ
カー。一般的な板金塗装とは一線を画
すそのマットで独特な質感はカスタム
にも最適で、部分塗装からオールペイ
ントまで様々な箇所、カラーリングで
塗装できるのだ。USTヨタやUKトヨタ、
ランドローバーのメーカーオプション
に採用されており、SEMA SHOWなど
のカーショーでもLINE-Xカスタムカー
が多数出展されている。



LINE-Xの成分は
高純度のポリウレタ樹脂
硬いカチカチの塗料を想像しがちだ
が、成分は独自の高純度ポリウレタで
とても味のある質感。適度な強度と柔
軟性を持ち、耐衝撃・耐腐蝕に加え
耐摩耗や傷防止、防錆、防汚食、防水
など様々なメリットを享受できる。



LINE-Xのココがすごい！



LINE-Xによる強度アップの実験！紙製のカップにクルマが！?

写真は「強さ」を実験するために、LINE-X塗装を施したポップコーンカップ4個で超重量級のランクル
200を持ち上げた時のもの。ご覧のように潰れることなく、ヘヴィな車体をしっかりと支えているのが
分かる。これはかなりの強さ。



高い技術と専門知識を有した技術者が塗装

LINE-Xは特殊なコーティング塗料のため、しっかりと研修を受けた技術者のみが施行を行える。施行車両の
受付はLINE-X AutoJapan直営店のほか、施行代理店や施行受付協力店でも行なっているためHPをチェック。

US空軍によって行われた爆風による破
砕試験で、27社のコーティング剤の
なかから唯一合格したLINE-X。米軍、
米政府が認めた唯一の最強塗装。その特徴や
凄さについて、LINE-X Auto Japan
を運営するフレックス・ドリーム広瀬部
の谷崎さんにお話を伺った。

この人に
聞きました！



フレックス・ドリーム
広瀬部
谷崎 秀隆さん

そのために施工されています。アメリカ国防
総省ペンタゴンをはじめ政府重要施設にも
テロからの被害軽減策として施工されてい
るほどで、米軍が認めた」と表記している
通り、ミルスペックも獲得しています。その
様々な効果から、各産業分野から注目され
ているのです。

実際に施工したものを触ってみると、
そのマットな見た目、艶感によりカスタム
「主米最大のチューニングカーショー」であ
るSEMA SHOWにもLINE-Xカス
タムカーが多数出展されており、アメリカ
のカスタムシーンではポピュラーな存在。
なんて呼ばれ、お馴染みになっていいますね。
現在、私たちもデモカーとして車体全身に
LINE-Xを施したランドクルーザーを各
方面に露出しており、実際に見て頂くこと
も可能です。本来の防護用塗料としてはピッ
クアップトラックの荷台に施工するのが始
まりで、キズをつけやすい4WD車のバン
パーやオーバーフェンダー、サイド部分な
ど部分的に施工するのが効果的だと思いま
す。アメリカンなカスタマイズに取り入
れるのにも最適だと思いますよ！